

彼谷委員から出された意見

1. 環境大気における処分場内と周辺、対照地点の現状と比較について

意見：処分場および周辺のガス成分濃度を対照区と比較すると、どの成分についても差がほとんどないと言える。経年的に見て、僅かであるが減少傾向があるようにもみえるが、まだ結論を出すには早い。経年変化はもっと長い期間の測定が必要。

2. ボーリング孔内ガスの種類とその増減について

意見：地中の廃棄物の分解はまだ部分的に継続していると考えられる。また、これまで生成していなかったガス成分が検出されていることから、これまで、なんらかの条件で分解しにくかった廃棄物の分解が始まっている可能性がある。

3. 地中（廃棄物層内）におけるガスの発生状況や傾向について

意見：地中のガスは今後も発生すると思われる。メタンの発生が続いていることは、まだ有機物の分解が進行中であることを示している。地中の有機物中にはS（イオウ）、Cl（塩素）、Br（臭素）やN（窒素）もまだあるとすれば、硫化水素、ハロゲン化メタンやアンモニアの発生も終わったとはいえないのではないか。

地中で生成したガスが脆弱地盤*に移動していると思われる部分が見受けられる。

※：脆弱地盤とは廃棄物の埋め立てで出来た間隙のある地盤のこと

4. 現時点におけるボーリング孔内ガスの発生レベルと周辺環境への影響の程度について

意見：処分場のガス濃度から見て、地中のガスは主に、脆弱地盤や覆土層下部でガス溜まりとなっている可能性が高い。現在、地表への放散があるとしても、周辺に影響を与ええるほどの量ではないと思われる。もし、この移動が地表に向かった場合、周辺のガス濃度が高くなる可能性がある。

5. 処分場で発生するガスにおける周辺環境と健康への影響

意見：周辺のガス濃度はそれほど高くないが、廃棄物の存在そのものが精神的負担となっている場合は化学物質過敏症のような症状があらわれるかもしれない。化学物質過敏症のメカニズムは不明な点が多いと聞いているが、専門医の意見を聞きたい。